

1. はじめに

厳しい冷え込みが続く2月となり、6ヶ月の派遣留学もとうとう最終月となりました。RHITでの科目の履修も終盤になってきたと同時に、帰国報告会の準備を進めているところです。今月は本留学の総括をさせていただき、最終の派遣留学報告書とさせていただきます。

2. 総括

初めて経験したアメリカでの生活は、毎日がとても刺激的で、他では経験することのできない貴重な時間でした。そのためこちらでの時間の経過はとても速く感じられました。アメリカに到着した当初は、何もかも初めての状況であり、右も左もわからない不安でいっぱいでした。けれども、心優しいたくさんの友人や先生方、スタッフの皆さんに支えていただき楽しい時間を過ごすことができました。

アメリカという国には驚かされることが多く、非常に新鮮でした。スーパーマーケットに行けば、広大な敷地や途方に暮れるほどの商品の豊富さ、食料品のパッケージの大きさに驚かされました。またアメリカは自由の国であるが故に、物事の雑さが目立つ一面や全てが自己責任になってしまうこともありました。日本にはない文化にカルチャーショックを受けることもありましたが、この国の個性として受け入れることができるように私自身もかなり変化したように感じます。

科目の履修についても、はじめは教授の話す英語の早さに対応できず、専門科目の学習は苦労しました。特に単語が特殊で、逐一辞書をひく必要性があったためです。それでも親身になって質問に対応してくださる先生方のおかげで、最後まで努力することができました。実験・実習も一人の正規の学生として参加させていただき、今までに経験したことのない実験をすることができました。KITにいるだけでは学習できない、たくさんのことを学ばせていただきました。また私個人としても、成長を感じる場面がありました。例えば先生方の英語を聞き取ることができなかった時期は、授業の音声を録音して何度も聞きなおす必要がありました。しかしその後、毎日英語に触れる環境のおかげで、録音せずともかなり聞き取ることができるようになりました。そして予習復習をすれば、授業内容を大部分理解できるまでに成長できました。また、何度も添削に応じてくださる親切な先生方のおかげでWritingの能力もずいぶん伸びたように感じています。

留学経験は私の価値観にも影響を及ぼしたと感じています。今まではニュースやインターネットの情報を鵜呑みにし、それぞれの国に対して自分勝手なイメージを持っていたように思います。しかしそのような情報はそれぞれの国のたった一面にしか過ぎず、より多面的に考える必要性があると感じました。母国についても、Japanese societyの授業や友人たちの日本に対する様々な見解を聞くことで、自分の国の歴史や文化について考えるいい機会を得ることができました。また、こちらでは私自身の意見を求められることもあり、勉強不足を感じる場面も多くありました。もっと日本の歴史や文化について勉強しなければならぬと感じました。そして、日本という国を一步外に出れば、私も日本人の一員としてみなされることに大きな責任を改めて感じました。

この6ヶ月間、英語での講義を受け、英語を使ったコミュニケーションをしてきました。英語を話すためには、もちろん基礎となる単語の習得や文法の理解が欠かせません。ですが、それ以上に相手とコミュニケーションをとろうという姿勢が一番大切であると感じました。相手が話すことが聞き取ることができなければ、聞き返せばいいのです。相手が使う単語が難しければ、簡単な説明に言い換えてもらえばいいのです。このような臨機応変な対応はコミュニケーションをとりたいという姿勢がなければできません。私は上記のようなことをこの留学経験の中で感じました。自分の話したいことを正確に伝えるには、より豊富な単語力や高度な文法の運用能力を身につけなければ

ばなりません。そのため今後も引き続き、英語力の向上に取り組んでいきたいと思います。今回の留学で多国籍の友人たちと知り合うことができ、英語学習に対するモチベーションをより一層上げることができました。

今回の派遣留学期間を通して、勉学の面でも精神の面でも様々な刺激を受けることができました。この経験を生かすのも殺すのも自分自身であると思います。ぜひともこの経験を人生の糧にすることができるよう、今後も英語の力を磨き、大学院での勉学に取り組んでいく所存です。

私は本留学に際して、生物学とアメリカ文化の関係について調査を行いました。キリスト教の信者が多いアメリカでは、進化論についてどのように考え、科学教育を行っているのかについて考察を行いました。詳細については報告会でご報告させていただきます。

3. 謝辞

最後にローズハルマン工科大学の関係者の皆様、金沢工業大学の石川憲一学長、佐藤恵一教務部長、札幌野順教授、長尾隆司教授をはじめとする先生方、国際交流室の皆様、金沢工業大学理事長、そして私の夢を理解してくれ、金銭面・精神面で私を常に支え、応援してくださる両親には本当に感謝しています。ありがとうございました。